

# 市民文芸

## 短歌 阿南市文化祭秋季短歌誌上大会 選

市長賞 ガラス戸に聞こえぬ耳をくつつけて夕暮

れのさみしい音を聞いてみた 田村としみち

議長賞 薙ぎ伏せし草を枕にまどろみぬこの山

畑を継ぐ者あらず 高丸あさひ

教育長賞・互選賞二位

新米のかゆをひとさじ飲みこんで九十二

才の母は逝きたり 車田マサ子

互選賞一位 生き様に「もったいない」が染みつ

て身辺整理は牛歩のごとし 中山 善嗣

互選賞三位 阿南市にいま避難指示 怪獣の

たうつごととき雨の竹藪 佐坂 恵子

特選 間のありてまた頼みますの笑顔おき会釈

して去るガス屋の主 佐野 幸子

特選 新生姜を割ればふわつと清し香の立ちく

る二キロをジャブジャブ洗う 小西 千恵

特選 嬉しきこと日記に三つ書くなら三つ目

浮かばずそのまま眠る 郡 雅和

特選 餅花を付けたとはしゃ々義母の声「習字も

見てよ！」とホームに馴染む 吉形 和恵

## 川柳 阿南川柳会 選

鏡よかがみ正直だけど負けないぞ

目をつむりエイと捨てる老いの恋

たつぷりの年金がある未亡人

そうですぬ笑って庇う物忘れ

ここはどこ部屋でコオロギ狼狽える

娘から届く手料理愛を食う

しあわせな老後と思う五七五

鳴き声がまだこびりつく競の朝

番犬でないぞと吠えるのを叱る

一般応募

親しまれ惜しまれつつも店終

余白まだあるかと八十の手術台

俳句 阿南市文化祭誌上俳句大会 選

市長賞 役ひとつ返上したる生身魂

議長賞 片言の日本語混じる夜学の灯

教育長賞

メモになき月見だんごも買いにけり

俳連賞

知らぬ子に挨拶もらう花笠

コンパクト開ければ秋の陽がはじけ

秋ともし読みかえしをり古日記

農夫また独り言云う秋微雨

稲刈りし夜は肩まで熱き湯に

母の背を流す露天湯夕月夜

逆光の遠き稜線秋茜

鳴き止むも鳴き出したるも法師蟬

翹雲放牧の牛ちりぢりに

先人の句碑建つ札所秋の風

家族写真添えて子よりのお中元

健やかに今日も新米塩むすび

漢詩 阿南漢詩研究会・青松吟社 選

新年書懷

歲朝獨喜酒杯中

生計雖貧笑語同

康健閑人詩未就

乾坤自改氣蓬蓬

歲朝獨喜酒杯中

生計貧なりと雖も 笑語 同じ

康健の閑人 詩未だ就らず

乾坤自ずから改まつて 氣蓬蓬

雙眸玉蕾五雲新

四野春光萬壽臻

郁馥蠟梅香草舍

主人飽滿總忘貧

雙眸の玉蕾 五雲新たに

四野の春光 万寿臻る

郁馥たる蠟梅 草舎に香り

主人飽滿 総て貧を忘る

蜂須賀至鎖公を詠ず

戰陣嚴冬飛雪中

八千兵力盡誠忠

一世軍功雖就譽

東條 明宏

大西 裕子

小西 晴美

喜來富士子

山野 賢治

近藤 まい

繁木 良子

池田 行子

大野シゲ子

戰陣の嚴冬 飛雪の中

八千の兵力 誠忠を尽くす

一世の軍功 譽を就すと雖も

悲運英雄を待ちしを 奈何せん